

【Plan】 計画 / 【Do】 実施														【Check】 評価 / 【Action】 改善							
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主要 事業所 管課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					成果の 方向性	R2年度 予算額 (千円)	R3年度 予算額 (千円)	事業費 の増減	人件費 (目安) 金額 (千円)	R1年度 事業 評価	R3年度に向けて 強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)	R1年度 局施策 評価	R3年度に向けて 強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)		
						指標名等	現状値 (基準値)	R1年度	R2年度	R3年度										中期 目標	
II-1-(2)-① 医療・救急体制の充実	1	③ ④	応急手当の普及啓発活動の推進	救急課	市民の救命効果の向上を図るため、AEDの取扱いを含めた応急手当の普及啓発活動を推進する。	応急手当講習の受講者数	39,641人 (R1年度)	目標	40,000 人	40,000 人	40,000 人	応急手当講習の受講者数の増加	継続	1,734	1,604	減額	20,370	順調	応急手当の必要性をより多くの市民に理解していただくよう、新型コロナウイルス感染症の感染防止対策を徹底し、積極的に普及啓発活動を行う。	順調	市民の救命効果の向上を図るため、AEDの取扱いを含めた応急手当の普及啓発活動を推進するとともに、計画的に救急救命士を養成する。
								実績	39,641 人												
								達成率	99.1 %												
	2	⑪	救急体制の充実強化	救急課	質の高い救急救命処置を提供できる体制に向け、計画的に救急救命士を養成する。	高度かつ安全で確実・迅速な救命処置	—	目標	—	—	—	高度かつ安全で確実・迅速な救命処置	継続	16,107	15,158	減額	20,370	順調	計画的に救急救命士を養成し、救急体制の充実強化を図る。	順調	市民の救命効果の向上を図るため、AEDの取扱いを含めた応急手当の普及啓発活動を推進するとともに、計画的に救急救命士を養成する。
								実績	—												
								達成率	—												

【Plan】 計画 / 【Do】 実施														【Check】 評価 / 【Action】 改善										
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策を構成する 主な事業・取組	主要事業所管課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					成果の 方向性	R2年度 予算額 (千円)	R3年度 予算額 (千円)	事業費 の増減	人件費 (目安) 金額 (千円)	R1年度 事業 評価	R3年度に向けて 強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)	R1年度 局施策 評価	R3年度に向けて 強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)					
						指標名等	現状値 (基準値)	R1年度	R2年度	R3年度										中期 目標				
II-1- (4)-③ 総合的な消防 防災体制の構築	3	⑪	自主防災活動の推進	予防課	地域防災力の向上を目的として、市民防災会の活動支援と訓練指導等に当たる。	全193地区における市民防災推進行事への年1回以上の参加	目標	193	地区・回	193	地区・回	193	地区・回	全193地区・回(毎年度)	継続	6,596	6,596	維持	6,675	順調	市民防災会に対する訓練指導等の支援を引き続き推進する。 市民の自主的な防災活動を支援することで、自主防災体制の確立を目指す。			
	4	⑪	住宅防火対策の推進	予防課	高齢者・障害者等の世帯への訪問を行い、防火・防災啓発に努めるとともに、火災や焼死事故等の防止に努める。	住宅用火災警報器の設置率	目標	82.3	%	全国の平均設置率と同程度	全国の平均設置率と同程度		住宅用火災警報器の設置率向上	継続	936	911	維持	24,700	順調	近年の焼死事故の状況を踏まえ、高齢者等を含む世帯に対して防火指導を継続するとともに、住宅用火災警報器の設置促進を図る。 また、住宅用火災警報器の設置義務化から10年以上が経過し、今後、電池切れの増加が見込まれることから、警報器本体の交換と定期的な点検・清掃の維持管理について啓発を強化する。併せて「無線式連動型」の普及に向けた啓発を行う。				
	5	⑪	消防団の充実強化	消防団課	老朽化した消防団施設の建替えを計画的に進めるとともに、消防団の装備の充実強化を図る。 また、消防団員の活動を積極的にPRするなど、消防団への入団促進を図る。	消防団施設整備による地域防災力の向上	目標	2	施設	2	施設	3	施設	地域防災力の向上	継続	115,776	105,538	減額	5,470	順調	消防団施設については、建替えが必要な施設を計画的に建替える。 消防団資器材については、被服及び感染防止用資器材を計画的に配置する。	順調	地域防災力の向上を目的として、市民防災会の活動支援や訓練指導等を行う。 高齢者世帯等に対して住宅用火災警報器の設置促進や適切な維持管理の広報を行い、火災による被害の軽減を図る。 また、地域防災の拠点となる消防施設の整備と耐震化を計画的に進めるとともに、若者が魅力を感じる消防団づくりを推進し、入団促進を図る。	
						消防団員の充足率	目標	96.0	%	96.0	%	96.0	%	96.0%(R3年度)										
						92.8%(R2.4.1)	実績	92.8	%															
							達成率	96.7	%															
6	⑪		消防団施設の耐震化	消防団課	地域の防災拠点となる消防団施設の耐震化を促進するため、耐震診断の結果に基づき、計画的に耐震補強工事を行う。	消防団施設の耐震化	目標	工事2施設 設計1施設	工事3施設 設計3施設	工事3施設 設計1施設		耐震化完了(R5年度)	継続	11,500	9,300	減額	11,285	順調	設計と工事を単年度で行うことで、円滑に事業を進める。					

【Plan】 計画 / 【Do】 実施														【Check】 評価 / 【Action】 改善										
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主要 事業所 管課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					成果の 方向性	R2年度 予算額 （千円）	R3年度 予算額 （千円）	事業費 の増減	人件費 （目安） 金額 （千円）	R1年度 事業 評価	R3年度に向けて 強化・見直した内容 （課題に対する改善方法等）	R1年度 局施策 評価	R3年度に向けて 強化・見直した内容 （課題に対する改善方法等）					
						指標名等	現状値 （基準値）	R1年度	R2年度	R3年度										中期 目標				
II-2- (1)-③ 住み慣れた地 域での生活支 援	7	③ ⑪	あんしん通報 システム	予防課	高齢社会の更なる進展等を踏まえ、看護師等による通年24時間の相談受付体制の充実や、緊急時の対応強化策として、民間の警備員が駆け付けるなど、高齢者等が住み慣れた地域での安全・安心な生活ができるよう支援する。	高齢者等の安全・安心な生活の実現	—	目標	—	—	—	—	—	—	継続	64,852	54,050	減額	9,050	順調	利用者全員が安心してサービスを利用できるよう安定的な運用を推進する。			
	8	⑪	いきいき安心 訪問	消防団課	介護職員初任者研修を修了した消防団員が中心となり、一人暮らし高齢者世帯等を訪問し、防火・防災や家庭内での事故防止の指導、簡単な身の回りのお世話を行うとともに、福祉に関する相談を関係機関につなぐなど、高齢者の安全・安心の向上を図る。	消防団員による年間訪問世帯数 ※指標追加	—	目標	2,464 世帯	2,304 世帯	2,464 世帯	—	—	—	継続	7,234	7,815	増額	990	順調	防災指導及び防災啓発を強化するとともに、住宅用火災警報器の設置を促進し、高齢者の安全・安心の向上を図る。	順調	あんしん通報システムについては、利用の促進を図るとともにサービスの安定的な運用を推進する。 いきいき安心訪問については、防災指導及び防災啓発を強化するとともに、住宅用火災警報器の設置を促進し、高齢者の安全・安心の向上を図る。	
II-3- (4)-② 国際協力・交 流の推進	9	④ ⑩ ⑪ ⑬ ⑭ ⑮ ⑰	【施策評価の み】 アジアの消防 リーダーとし ての国際協力	訓練 研修セ ンター	【施策の内容】 アジア地域の消防関係者を受け入れ、北九州市消防局の消防・防災に関する技術移転を行う。	【施策の指標】 アジア地域からの研修員受け入れ継続	アジア 地域か らの研 修員受 け入れ 継続	目標	受入	受入	受入	—	—	—	継続	—	—	—	—	—	—	—	順調	引き続き、国際協力機構（JICA）と連携し、さらにアジア地域の研修員が増加するよう呼び掛け等を行う。

【Plan】 計画 / 【Do】 実施														【Check】 評価 / 【Action】 改善							
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策を構成する 主な事業・取組	主要事業所管課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					成果の 方向性	R2年度 予算額 (千円)	R3年度 予算額 (千円)	事業費 の増減	人件費 (目安) 金額 (千円)	R1年度 事業 評価	R3年度に向けて 強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)	R1年度 局施策 評価	R3年度に向けて 強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)		
						指標名等	現状値 (基準値)	R1年度	R2年度	R3年度										中期 目標	
Ⅲ-2-(2)-② 市民の文化芸術活動の促進	10	④ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯	消防音楽隊による文化活動	訓練 研修 センター	市主催の式典や消防の各種行事等に出演し、市民参加向上の役割を担うとともに、音楽隊の演奏やカラーガード隊の演技を通じて、市のPR活動や防火・防災啓発活動を実施する。 併せて、児童の健全な育成等に寄与することを目的に、教育機関と連携し、積極的に児童教育に貢献する。	消防音楽隊出演の聴衆者数	目標		95,000 人	95,000 人		95,000 人 (毎年度)	継続	6,781	6,652	維持	4,615	順調	ホームページの更新、SNS、市政だより等を活用して、市民向け行事の周知と消防音楽隊の知名度の向上を図る。 また、広報活動への参加者数の増加につなげ、市民の防火・防災意識の向上、消防音楽隊の演奏演技を通じた児童の健全な育成を図る。	順調	ホームページやSNSを活用した広報活動を継続するとともに、音楽を通じた安全・安心の提供及び防火・防災の普及啓発を行う。
							実績	91,895 人 (R1年度)													
							達成率														
						音楽を通じた安全安心の提供及び防火・防災普及啓発	目標		2 回			2回開催 (毎年度)									
							実績	1回開催 (H28年度)	0 回												
							達成率		0.0 %												
						消防音楽隊出演回数	目標		150 回			消防音楽隊出演回数 の増加									
							実績	156回 (H28年度)	144 回												
							達成率		96.0 %												
Ⅶ-1-(3)-② 上下水道、消防、交通などの分野における国際協力の推進	11	④ ⑩ ⑪ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯	【施策評価のみ】アジアの消防リーダーとしての国際協力	訓練 研修 センター	【施策の内容】アジア地域の消防関係者を受け入れ、北九州市消防局の消防・防災に関する技術移転を行う。	【施策の指標】アジア地域からの研修員受け入れ継続	目標	受入	受入	受入		継続	—	—	—	—	—	順調	引き続き、国際協力機構(JICA)と連携し、さらにアジア地域の研修員が増加するよう呼び掛け等を行う。		
							実績	8 名													
							達成率	—													